

ProWein ジャパンパビリオン開会式 総領事挨拶 (2~3分)
(日独逐次通訳)

日時：平成30年3月18日(土) 11:15~
場所：メッセデュッセルドルフ Hall 9 A47

- プロワインは世界最大のワイン・アルコール飲料関連の見本市であり、近年日本でも注目度が高まっている。今年は始めて、国税庁とメッセデュッセルドルフジャパンとJETROが共同でジャパンパビリオンを出展され、日本からの出展者数も過去最大となり大変嬉しく思う。また、今年から、ProWeinに新たに「SAKE」というカテゴリーが新設されており、来場者の方に日本酒が益々注目されることを期待する。
- 海外における日本食、日本酒ブームにより、EU向けの日本酒の輸出額は過去5年で2倍に増加。さらに、甲州ワインを始めとする日本産ワインも大きなポテンシャルがあり、すでに世界的なブランドとなった日本産ウイスキーとともに、将来的に世界の食卓を楽しませてくれるはずである。
- 本官の公邸会食は、日本酒で乾杯して始まり、ワインは食事に合わせて国産と欧州の双方を提供している。日本酒も日本ワインもよく売れるので私は大変驚いている。本格的な日本食が普及しているデュッセルドルフでは、ますます需要が高まるものと思う。
- 昨年12月に交渉妥結した日EU・EPAにより、工業製品のみならず、食品にも双方の市場がさらにアクセスしやすくなる。このチャンスをぜひつかんでほしい。EUに向けての日本酒や日本産ワインに対し、日本市場向けにはアルトビールとKillepitschがある。日独間のアルコール飲料貿易は、Win-Winの関係にある。
- ジャパンパビリオンで多くの方に日本酒や日本産ワインを試して頂き、成功の見通しを自ら確認してほしい。